

令和8年度 岐阜県林業普及活動意見交換会開催報告

1 日 時

令和8年8月4日（火） 13：30～16：40

岐阜県立森林文化アカデミー 森の情報センター

2 出席者

意見交換会会員	5名	
林業普及指導員	26名	
森林研究所	3名	
若手職員育成メンバー他	1名	合計35名

3 内容

（1）林業普及実績発表

○林業普及指導員中部・北陸ブロックシンポジウム、岐阜県森林・林業関係合同発表会における発表者の選考を兼ねた実績発表を実施

発表1：西濃地域の獣害対策の現状と課題

西濃普及指導区（西濃農林事務所 池田 毅）

発表2：市町村の現状に応じた森林経営管理制度の取組及びその支援

～美濃市の取組事例～

中濃普及指導区（中濃農林事務所 柘植 孝久）

発表3：中津川市付知地域の森林整備促進の取組

恵那普及指導区（恵那農林事務所 酒井 利明）

発表4：多雪地域でニホンジカから植栽木を守るには

飛騨普及指導区（飛騨農林事務所 田口 正英）

○投票結果

選考方法は、外部有識者で構成される岐阜県林業普及活動意見交換会会員と林業普及指導員による投票（採点）により下記のとおり決定

・林業普及指導員中部・北陸ブロックシンポジウム（2026/9/14-15 新潟県長岡市）

飛騨普及指導区 田口 正英

・岐阜県森林・林業関係合同発表会（2027/2/5 関市わかくさプラザ）

中濃普及指導区 柘植 孝久

(2) 意見交換会

○委員からの主な意見、助言等

<西濃地域の獣害対策の現状と課題 池田 Ag>

- ・ 単木保護資材による防除には限界があり、防除できない場合は変更を促すなどの普及員の強い指導も必要だと思っている。
- ・ 裸地化した造林地は災害発生の危険があるので、再造林は重要と認識している。川下の木材を使う側として50年後の資源づくりに努めて欲しい。
- ・ シカ対策をしっかりとやらなければ、主伐・再造林が進められないことが良く分かった。
- ・ 管内の4箇所の再造林地だけではなく、多くのデータ集めができるとより良くなる。

<市町村の現状に応じた森林経営管理制度の取組及びその支援

～美濃市の取組事例～ 柘植 Ag>

- ・ 美濃市の体制に応じた取り組みだと思う。さらに手遅れ林分の対応策を明確にできると良い。
- ・ 日頃から林務担当職員の少ない市町村への普及員の指導は重要と感じている。
- ・ 順調に進んでいる中で、難しい事例にも取り組むことが重要ではないか。
- ・ 業務フロー図は市の職員にとって分かりやすく、よくできているが、普及員の関わりについても触れて欲しかった。
- ・ 普及員の役割としては、地域の調整役があるが、黒子ではなく、前面に出て進めて欲しい。転勤先でも熱意をもって取組めば、やがて全県下に広がるはず。

<中津川市付知地域の森林整備促進の取組 酒井 Ag>

- ・ 難しい問題に取り組まれている。人づくりの関係は地道にやるしかない。
- ・ 付知地域内の4事業体に、担当する地域を割り振るアイデアが良いと感じた。
- ・ 普及員が間に入って主体的に取り組むべき課題であると思う。
- ・ 組織内の世代間に意識の違いがあり、若手が前向きであるならば、そこに解決の糸口があるはず、頑張っている。

<多雪地域でニホンジカから植栽木を守るには 田口 Ag>

- ・ 例年になく、4課題とも良い発表であったが、飛驒の発表が最も論理的な構成で分かりやすかった。
- ・ 林地残材を活用したシカの誘導は初めて知った。誘導柵と併用し、センサーカメラでの検証も有効であると感じた。多雪地域以外でも参考になる。
- ・ 県下全域の獣害関係情報データを入手し、系統立てて取りまとめ、それを分析し普及員が共有することで普及活動が有意義なものになる。